

校内研修をきっかけとして生まれる、 教員同士の「日常的な ICT 活用交流」

A:校内研修 I 型(日常的に行う研修)

このような教員の姿が生まれました!

- 日常的に「こんな活用をしてみた。」という実践についての教員間の交流が増えました。
- 操作方法や活用場面について、気軽に相談し合う教員が増えました。

教員が集まる職員会や打合せを利用した「ICT 活用実践」の交流

職員会や打合せの時間を使い、ICT 活用推進担当が、ICT 活用の実践紹介を行ったり、他の教員の実践事例を紹介したりして、教員間の交流の場とする。

- ・教員が全員集まる機会を利用して、ICT 活用に関する実践交流を行う。
- ・まずは ICT 活用推進担当自身が ICT を活用した実践を主に紹介する。
- ・どの教科でも活用ができそうな協働学習支援ツール (Teams) 等の操作や活用方法の研修を行う。



「研修」を行う際のポイント

- 研修という名の「交流会」であることを念頭に置き、「知る」ことを重視する。
- 実践交流の際は、どの教員も「気軽にできそうだ。」という意識になるよう、各自のICT端末を持参し、その操作方法などを確かめながら行う。

「職員会や打合せを利用した ICT 研修」による効果

～ iPad 実践紹介～

☆画面収録で動画を作成する方法



教員間でICTを活用した授業について日常的な交流が増え、有効な情報共有につながる。

- ・「〇〇の授業で～な使い方をしてみた。」「授業で使ってみて～な部分が難しい。」「こんな活用をしてみたいが、どうすればできるのか。」といった質問が気軽にできる。

まずは使ってみる。
そして、その活用場面を交流する。
それが、効果的な活用場面かどうかの話合いにつながる。



どんな場面で、どう使うとよいのか・・・
使えばよいという意識から、「どう使うと児童生徒のためになるのか」を考える意識へ

- ・「～な活用をすることで、児童生徒の～な力を伸ばすことができる。」「～な場面で活用したらとても効果があった。」「〇〇さんは、とても熱心に取り組んでいた。」といった“効果的な活用”へと意識が変わってきた。

ICT 活用推進担当の指導のポイント

- どのような活用場面があるのかを広めていくことで、次第に教員同士で「効果的な活用」を意識した話合いや交流を行うようにしていく。